

たかおさん
「ヤマガラの名の由来」の巻

高尾山は食料の宝庫だー

ヤマガラ
イモムシ
エゴノキ

電音電音
電音電音

電音電音

ヤマガラに住んで、
軽々と動いて、
名前らしい

※諸説あり

うぶす

電音電音

作・絵：おざき

「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて配布しております。
ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

Twitterでふりかえる 高尾山ニュース!

高尾ビジターセンターのTwitter・Facebookをチェックしていただいているみなさま、いつもご覧いただきありがとうございます！
山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。
2023年4月～6月の間のツイートから、注目のニュースをご紹介します。

高尾ビジターセンター【公式】
@takaovc

天気:曇 気温:17.5°C 富士山展望:×

最近、#アナグマの目撃情報が増えています。木の実を求め、日中も山内を歩き回っているようです。餌探しに夢中で近づいてくることもあります。餌を与えること、近づきすぎないように、優しく見守りましょう
#高尾山 #高尾ビジターセンター

高尾ビジターセンター

午前9:52 · 2023年5月31日 · 9,164 件の表示

今年は山頂周辺で活動するアナグマを連日観察できた当たり年！
子どものアナグマが大見晴トイレ周辺をさまようハプニングがありました。無事お母さんの元に戻れたでしょうか…。ヤマガラの実を夢中で食べていたアナグマはメスのようですが、山頂周辺には複数頭いるようです。

解説員
くらむ
vol.34

溶ける生き物…!?

うだるような暑さが厳しい真夏となり。こんな季節に食べたくなるのは冷たいソフトクリームやパフェ。かき氷ですが、どれもすぐに溶けてしまうので食べる際は焦ってしまいますよね。そこで本題なのですが、皆さんは高尾山にもいる「溶ける生き物」を知っていますか？…ナメクジ？…カタツムリ？いいえ、皆さんご存知のチョウやカブトムシ等の昆虫です。

チョウやカブトムシ等の完全変態型と呼ばれる昆虫たちは、幼虫(イモムシ)からサナギへ、サナギから成虫へと姿を変えて育つ生き物です。この中でサナギの段階では、一部の筋肉や神経等を除いて、内部の体のほぼ全てをドロドロの液状にあえて溶かしてしまい、そこから翅や角が生えた新しい姿を再構築するのです。とても興味深い生き物のメカニズムですね。真夏の高尾山ではそんなサナギから出てきたカラサアゲハやオオムラサキ等のチョウ、カブトムシやミヤマクワガタ等の甲虫たちと出会えるチャンスがあるので、昆虫観察にオススメです。

以前、高尾山でアカシゴマダラというチョウのサナギを見た時に、私は「サナギの中で一旦溶けて、新しい姿の自分に生まれ変わるっていうのも面白そうだな」と少し羨ましくなりましたが、家族や友人たち、他のビジターセンタースタッフが悲しむのでやっぱりやめておこうかなあと思いました。楽しかった思い出も一緒に溶けて無くなってしまったら嫌ですからね。

〈解説員 なかの〉

高尾山山頂から発信!

のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。

vol.72 季刊
2023年夏号

ヤマガラの1年間に密着!

高尾山でよく見る野鳥の『ヤマガラ』。登山道で姿を見たり、鳴き声を聞いたこともある方も多いのではないのでしょうか？
今回は高尾山に暮らすヤマガラの1年間についてご紹介します!

スズメの仲間 重さ約15g

ニ---!

東京23区内では絶滅危惧種II類!

実は!

大ききも同じくらい! 100円玉3枚分(約15g) 都会より森で暮らしたい!

春・夏の暮らし

巣作り

ヤマガラが好む環境～広葉樹林に住みたい～
ヒナに与える幼虫が多く生息する広葉樹林に多く見られる傾向があります。昔から保護されてきた広葉樹林が多い高尾山は、巣作りに最適!

調査年度	針葉樹林	広葉樹林
2013年5月	13.1%	29.5%
2014年4月	16.1%	33.9%
2015年4月	18.6%	20.3%

白井聡一(2018)
「針葉樹林ギャップ地を落葉広葉樹林に再生する過程における鳥相の変化:録音によるデータ収集」日本鳥学会誌(65)より引用

▲繁殖期の針葉樹林・広葉樹林のヤマガラ出現率(高尾山小下沢周辺の記録)



巣に選ぶ場所
・木の洞
・電柱の中
・巣箱
…などなど

▲木の洞を確認中…

子育て

4月初旬から産卵・巣作りがはじまります。昆虫の3大生息地にも数えられる高尾山では、昆虫が一気に動き出す時期のため、ヒナに与える食べ物も豊富です。

ヤマガラのヒナが巣立つまで

①産卵 5～8個ほど卵を産む

②ふ化 2～3週間でヒナが誕生!

③巣立ち 約2週間で巣立ちをむかえます!

巣立ち直前は1日に120回以上食べ物を運ぶことも!

親鳥と移動します!



高尾山にシカが現れるまで

ニホンジカ（以下、「シカ」）は、日本の広範囲に生息しており、古来より食料や産物利用、文化的にも日本人と関わりの深い野生動物です。近年シカの生息域が全国的に拡大し、森林生態系への影響が問題視されていることはご存じでしょうか？高尾山もまた、その例外ではありません。

これまで高尾山におけるシカの日撃情報は稀で、旧高尾自然科学博物館発行の「東京の自然第19号（1993年）」でも「高尾山にシカは生息していない」と記述があり、これが従来の高尾山のシカ生息状況の定説とされてきました。ところが、ここ数年の間にシカの日撃情報が増えています。私自身も山頂周辺でシカの食べ跡を見かけるなど、シカの高尾山進出を感じます。事実、この傾向はデータとしても示されており、「日本山岳会 高尾の森づくりの会」による動体に対応して自動撮影する固定カメラを用いた記録では、高尾山の北側に位置する小下沢林道において、シカの記録件数が2013年以来、年々、右肩上がりに増加している事が確認されました。

時は遡ること江戸時代、当時の高尾山周辺におけるシカの主な生息域は関東平野でした。しかし、江戸時代後期から農地の拡大や人口増加により、大規模な開発が行われ、シカの主要な生息域は丹沢、秩父、奥多摩の深い山奥へと追いやられたのです。現代では深い山に暮らす印象が強いシカですが、元々は平地に暮らしていた。高尾山のシカは奥多摩エリアから「進出してきた」と考えられていますが、長い目でみると、低山や平野部へ「帰ってきた」とも言えるのです。



▲高尾山内のセンサーカメラで撮影されたオスのニホンジカ

〈解説員おかだ〉

解説員の
ちおし
vol.30

ギンリョウソウと
アキノギンリョウソウ

アキノギンリョウソウ 花期:8~9月
ギンリョウソウ 花期:5~8月

実:乾いている「さく果」
実:みずみずしい「液果」

夏の初めに土から顔を出す真っ白なギンリョウソウ。秋口にも出会うことがあり（あれ？花期が長いなあ）と思っていたら、それはギンリョウソウではなくアキノギンリョウソウ。別名ギンリョウソウモドキです。よく似ている別の植物でした。実の付き方に大きな違いがあるので、ぜひ観察してみてください。

〈解説員 やまもと〉

観察しやすい場所:3・4・5号路

実録！ ベランダ巣箱4年間の記録

高尾ビジターセンターにあるベランダの巣箱は、2020年から毎年入居者が絶えない物件。年によっては、2種による巣箱の取り合いも発生します。

<p>2020年</p> <p>巣箱カメラを取り付けたから初めての入居者はヤマガラ！</p>	<p>2021年</p> <p>ヤマガラとシジュウカラが争い、戦いに勝利したシジュウカラが入居。</p>	<p>2022年</p> <p>ヤマガラが入居しヒナが孵りましたが、子育ては失敗...</p>	<p>2023年</p> <p>ヤマガラとシジュウカラの両種が卵を生み、シェアハウスに! とうなる!?</p>
--	--	---	---

秋・冬のくらし

混群 ~春夏の敵は今日の友!?!~

巣作りの時期は競争していたヤマガラとシジュウカラも、冬は「混群」という小さな群れを作ります。2種の他にもエナガやコゲラ、メジロなども加わり、一緒に行動します。



- 混群で行動するメリット
- ・食べ物を多くの目で探せる!
 - ・天敵にいち早く気づける!
 - ・敵から食べられる確率が減る!

貯食 ~隠しておいて冬に食べよう~

ヤマガラは木の実を貯める性質(=貯食)があります。秋になると、山内では木の実を隠したり運んだりする姿が目立ちます。



ヤマガラが好んで貯食するのは、堅い木の実。外側の皮をはがし、地面や木の割れ目などに隠します。食べるときには、丈夫なくちばしで殻を叩き割ります。

登山道沿いで見かけるヤマガラはとってもユーモラス。ちょこまか移動しながら時折見せる可愛いしぐさに心を掴まれます。特徴のある鳴き声と山内でも見つけやすいヤマガラは観察にもぴったり!1年間の暮らしを見ていくと、森林環境を好むヤマガラにとって高尾山は最高のすみかであることがわかります。ヤマガラがずっと棲み続けられるような高尾山を保っていききたいですね。

〈解説員 かわまた〉